

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公表番号】特表 2005-524402 (P2005-524402A)

【公表日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【年通号数】公開・登録公報 2005-032

【出願番号】特願 2004-501635 (P2004-501635)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/44 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/08 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/44

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/00 1 0 1

A 6 1 P 25/08

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 25/28

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 21 日 (2006.4.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化合物が P D E 1 0 を選択的に阻害する活性を有するか否かを インビトロ で判定する方法であって、

a) 化合物を中等大有棘ニューロン培養物に与え；そして

b) 培養物において C R E B のリン酸化が増大するか否かを測定する

ことを含み、C R E B のリン酸化の増大により、工程 (a) で与えた化合物が P D E 1 0 を選択的に阻害する活性を有すると判定する方法。

【請求項 2】

化合物が P D E 1 0 を選択的に阻害する活性を有するか否かを インビトロ で判定する方法であって、

a) 化合物を中等大有棘ニューロン培養物に与え；そして

b) 培養物において中等大有棘ニューロンが産生する G A B A の量が増大するか否かを測定する

ことを含み、中等大有棘ニューロンによる G A B A 産生の増大により、工程 (a) で与えた化合物が P D E 1 0 を選択的に阻害する活性を有すると判定する方法。

【請求項 3】

強迫性障害、トゥレット症候群、および他のチック障害から選択される障害を処置す

るための医薬組成物であって、その障害を処置するのに有効な量の選択的 P D E 1 0 阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項 4】

神経変性性の障害または症状を処置するための医薬組成物であって、その障害または症状を処置するのに有効な量の選択的 P D E 1 0 阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項 5】

神経変性性の障害または症状が、パーキンソン病；ハンチントン病；痴呆、たとえばアルツハイマー病、多発梗塞性痴呆、エイズ関連痴呆、およびフロントテンペラル痴呆；脳外傷関連の神経変性；卒中関連の神経変性、脳梗塞関連の神経変性；低血糖誘発性の神経変性；てんかん性発作関連の神経変性；神経毒中毒関連の神経変性；ならびに多系統萎縮から選択される、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

神経変性性の障害または症状が、中等大有棘ニューロンの神経変性を含む、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

神経変性性の障害または症状が、ハンチントン病である、請求項 5 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

ハンチントン病およびドーパミンアゴニスト療法に関連したジスキネジーから選択される運動障害を処置するための医薬組成物であって、P D E 1 0 を阻害するのに有効な量の選択的 P D E 1 0 阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項 9】

強迫性障害、トゥーレット症候群、および他のチック障害から選択される障害を処置するための医薬組成物であって、P D E 1 0 を阻害するのに有効な量の選択的 P D E 1 0 阻害薬を含む医薬組成物。